

氏名： 羽入 佐和子 (HANYU Sawako)
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
学位： 学術博士 / Dr. of Philosophy
職名： 教授
専門分野： 哲学 / Philosophy
E-mail： hanyu.sawako@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

比較思想 / クリティカル・シンキング / 生命 / ヤスパーズ哲学 / 科学と技術
comparative thought / critical thinking / reason / Existenz / philosophy of Karl Jaspers

◆研究内容 / Research Pursuits

科学研究費補助金による研究（「いのちの尊厳」教育における生命科学の位置価値に関する教育課程の国際比較研究）において、モラルサイエンスと死生観に関する理論の分析を分担している。特に哲学の視点から科学的思考方法の特性と問題点を分析し、共同研究者との研究会において報告した。

また、国際ヤスパーズ協会連盟理事として、2008年8月に開催する国際ヤスパーズ会議の企画と開催準備を行った。この会議では、The cross-cultural thought in Jaspers' Philosophy のテーマで発表する。

On my research, I have two themes. The one is to analyze human beings in the context of history of philosophy. The other is to point out the difference of methods of thinking between philosophy and natural science. In 2007, I investigated the way of thinking about human spirits, (soul or mind) and reason, with some researchers of different fields, such as education, medical science, and religion. This was under the theme of 'A comparative study of educational programs about the dignity of human life and the meaning of life and death in comparison with life science'.

Concerning Jaspers' philosophy, I have prepared my paper; 'The cross-cultural thought in Jaspers' Philosophy', which will be presented in the International Jaspers Conference in 2008 in Seoul (Korea).

◆教育内容 / Educational Pursuits

学部教育では、ヨーロッパ近現代における「理性」「精神」「こころ」をテーマとし、デカルト以降の哲学史の流れのなかで「理性」「精神」「こころ」がどのように論じられてきたかをテキストの購読を通して解釈した。また、これらの概念と日本語の意義を比較しながら論じた。その際に主としてデカルト『方法序説』、カント『道徳形而上学原論』を参考とした。

大学院教育では、フランス哲学、ヤスパーズ、ハイデガーの思想をテーマに研究している学生の論文指導を行い、授業では、ライプニッツ『形而上学叙説 (Discours de metaphysique)』『モノドロジー (Monadologie)』、アリストテレス『形而上学 Metaphysics』をテキストとして、「存在の問題」をテーマに議論した。

The theme of the seminar in undergraduate course was inquiring concepts of 'reason' and 'spirit', 'soul' in human beings. We discussed the meaning of these concepts in Japanese thought in comparison with European philosophy. In the seminar we have read some texts of philosopher, e.g. "An Introduction to the Method" written by Descartes, and "Groundwork of the Metaphysics of Moral" by Kant, and have discussed their thoughts.

In graduate seminar we have investigated into the metaphysical thought of Leibniz and Aristotle, reading the following texts. Leibniz; "Discourse on Metaphysics" and "Monadology", and Aristotle; "Metaphysics".

◆研究計画

「人間」を総体として考察する方法の研究をテーマとしている。これまで存在の分析や人間論の分析を哲学の手法に基づいて行い、特に二つの視点を重視してきた。第一には、分析の方法に対象が相対的であること、他は、文化的差異による特異性である。歴史を刻み日々を生きる人間を対象とするには、いかなる分析方法が適切かを吟味するために、科学的方法論と比較しながら哲学の手法を用いて解明することが今後の研究の方向である。

◆メッセージ

本学の哲学コース、哲学専攻の特色はクリティカル・シンキングの手法を習得することにある。これは、論理的思考を吟味し、議論し、緻密で説得力のある主張を可能にするための訓練でもある。哲学史はこのような思考の吟味の歴史ともいえる。

本学で哲学を専攻した卒業生の進路は、研究の道を進む者、教育関係や公務員、一般企業に就職する者など多岐にわたるが、それぞれに大学で学んだ哲学の専門を生かしている。「哲学がこれほど役に立つとは思わなかった」と研究室を訪ねて来る卒業生も多い。